

時事作品

目

尾藤三柳選

【特選】

去る者へも残る者へも花吹雪

佐藤 ヒサ

危機存のときに、藥が抜けまうに大物が去っていく自覚、泣き面に輝といわれたくないから平靜を装ってはいるが、無心の花吹雪を先刻に見通して笑っている。

【秀逸】

3Dで第3極を見る疲れ

山口 早苗

国民が解放されている。大政党を危亡に、第二極を自派、小集團が集りを争っているが、これを3D画像としてみても、火事場、口口似たりサ、さは消せない。

掌を何度も返すマニフェスト

松原 幸子

約束の数だけ掌を用意しておいて、約束の履行が無理なときは、それを裏返したりまた表に返したりすればいい。公約は公約破りはまじに始まったまぢかしてははい。

密約の灰を差し出す外務省

藤井 栄舟

よくも永いあいだ国民をたまし縛けた元凶が、イヘル平和宣言の佐藤外相相たらたごころにもおぼやめ、ひょうとすまもそんな裏取りがまを出してくるのでは、

移転先そろそろクジで決めようか

岸野たかまさ

無いあたまで絞るよりは、いってなん引きで決めたらどうか、とは若者の無責任な放言でも取れませんが、そんな愚い言はるは無能でしかないよが、ない政治

前号から本号まで、果てしないぬ

かるみを歩くよつな「普天間問題」

が続き、気がつけば、ほとんど前へ

進んでいないのは、当事者の優柔不

断と指導力の欠如によるものだろ

うが、それに対する時事川柳が、た

だ舌打ちばかりしていても始まら

ない。小沢は諷刺の対象になつて

も、鳩山は暖簾に腕押し之感があ

る。揶揄の対象と諷刺の対象とは異

なる。江戸時代までは、真に諷刺の

対象となるべきものから眼を逸ら

し、からかいや当てこすりだけに終

始した。諷刺すべきものと、そうで

ないもの見分けも、時事作家にと

つて大切なことである。その厳然た

る区別がないと、単なる風俗作家で

しかあり得ない。

その《目の力》を極限まで發揮す

ることを本欄では期待している。

満開の下で氷河の避ける音  
 日の丸がない万博のパピリオン  
 日銀が顔をゆがめる与謝野節  
 新党は軸足だけでたちあがる  
 時効無き迷宮入りと御蔵入り  
 米櫃を持ち総書記の遍路旅  
 ユーロ圏ギリシヤ神話が黄昏る  
 歌舞伎座の代わりのような新タワー  
 新聞にやっと出てきたもんじゅの名  
 千円で行く連休のプログラム  
 ヤワラちゃん金のバツジも欲しくなり  
 ピカソから百億円のラブレター  
 哀しいね 抑止方っていうものも  
 歌舞伎座は見納めたばこ喫み納め  
 金バツジ投打でねらう夏の陣  
 弟が独り船出をする弥生  
 殺人の時効即日死語となる  
 帽子から飛び出たハトに空がない  
 時効から箒で掬つたいのちの値

松永昇児  
 同  
 同  
 同  
 島崎穂花  
 同  
 山口早苗  
 同  
 鈴木寿子  
 同  
 島崎 肇  
 同  
 小林寿寿夢  
 同  
 尾藤一泉  
 同

普天間の五月の空は不透明 佐々木福太郎  
 参議院体育系が目玉です 同  
 当て逃げのようにも見える先送り 同  
 小泉の二世議場で透き通り 味野和一柳  
 日の丸がない友愛のパピリオン小野寺帆平  
 追悼の追悼をするポーランド 松原幸子  
 神技のバーディー芝も総毛立つ 塩見佳代  
 密約を暴けば火の粉降りかかり 石井光夫  
 新党の中身は古い五人衆 斉藤ふじお  
 ギャルも来るファミリーも来る牛丼や 吉川一男  
 タケノコの伸びを新党見上げてる 無記名  
 アメリカの余震に揺れるトヨタ城 益子善三郎  
 また一つJAL借財の置き土産 三浦哲夫  
 百均とアウトレットで事が足り 小田由美  
 おしやべりを大臣にして口封じ 白川楽人  
 足元に時限爆弾抱く総理 久保昭二  
 いよいよの鳩は思案の目が空ろ 羽崎孝治  
 ここだけが昭和のままの基地の町 田口立吉  
 効く場所に釘が打てない自民党 川村雄一